

福島県 令和6年度介護のしごとキャリア教育事業

フ
ゆくしまゆくし
みらいキャンパス
— FUKUSHIMA FUKUSHI MIRAI CAMPUS —

プログラムご説明資料



ふくしまふくしみらいキャンパスとは？

県内介護事業所で働く若手介護職員と、
福祉・介護業界で活躍する次世代リーダーがサポーター講師として県内の高等学校などを訪れ、
介護の仕事の魅力や価値、高齢化社会の中で求められる視点を学ぶキャリア教育プログラムです。

2030年には生産年齢人口が2020年の約8割、2040年には約7割に減少する見込みとなり、
現在の高校生は、人口減少社会の中でさまざまな課題に直面しながら、活躍が求められる世代です。

プログラムを通して、

福祉・介護の仕事や高齢化社会を支える仕事に興味関心を抱くきっかけや、
変化が大きく予測困難なこれからの時代を前向きに生きるための様々な視点を養う機会を作り、
「福島未来を担う人材の育成」を目指します。



本プログラムが目指すこと：高齡化が進む福島の未来を担う人材の育成

福島県は全国平均を上回るスピードで高齡化が進展しており、現在の高校生が社会で活躍する2030年代～2040年代は、高齡化がますます社会課題となっていることが想定されます。

本プログラムでは、「福祉・介護」について前向き考えるきっかけをすることで、**福祉・介護の仕事に関心を持つことはもちろん、高齡化・人口減少が進む変化が大きい社会の中で、どのようなスキルを高め、キャリアを描いていきたいかを考えるきっかけを作り、数としての介護人材確保だけでなく、固定観念に捉われず、新たな挑戦に挑む「福島の介護の未来を担う人材の発掘」を目指します。**

対象別 参加後に期待する意識変容（一例）

介護の仕事に
就きたいという
気持ちが高まった！

福祉系の生徒



自分に向いてるかも。
大学で福祉を学んで
みようかな。

文系の生徒



将来、高齡化社会を支えるサービスを
開発する仕事も良いな

理系の生徒



プログラム概要

プログラムの流れ

原則2コマ100分の授業です。（ご希望に合わせて調整可能）
一方的な講義形式ではなく、対話形式の時間を設け、受講者との学び・気づきを促します。



① 介護業界で活躍する サポーター講師の講話

サポーター講師が自身の体験をもとに、福祉・介護分野で働くことの魅力・可能性を届けます。
福祉・介護についての理解を深めるとともに、高齢化社会におけるキャリアを考えるきっかけを提供します。



② 県内介護事業所で働く 若手介護職員の講話

年齢が近く、受講者にとっても身近なロールモデルとなる地元で活躍する若手介護職員が、自身の体験や介護の仕事について紹介し、介護の仕事への理解・関心を深めます。



③ グループワーク 意見交換

①②の内容を受け、受講者間でのグループワークや意見交換の時間を設け、学び・気づきを言語化するとともに、他者の意見からの気づきを得ることを目指します。

※内容・実施時間・実施形態などは、ご希望に合わせて調整可能です。

(参考) 令和5年度のプログラムについて

令和5年度は7校で計10回のプログラムを実施、282名の高校生に参加していただきました。

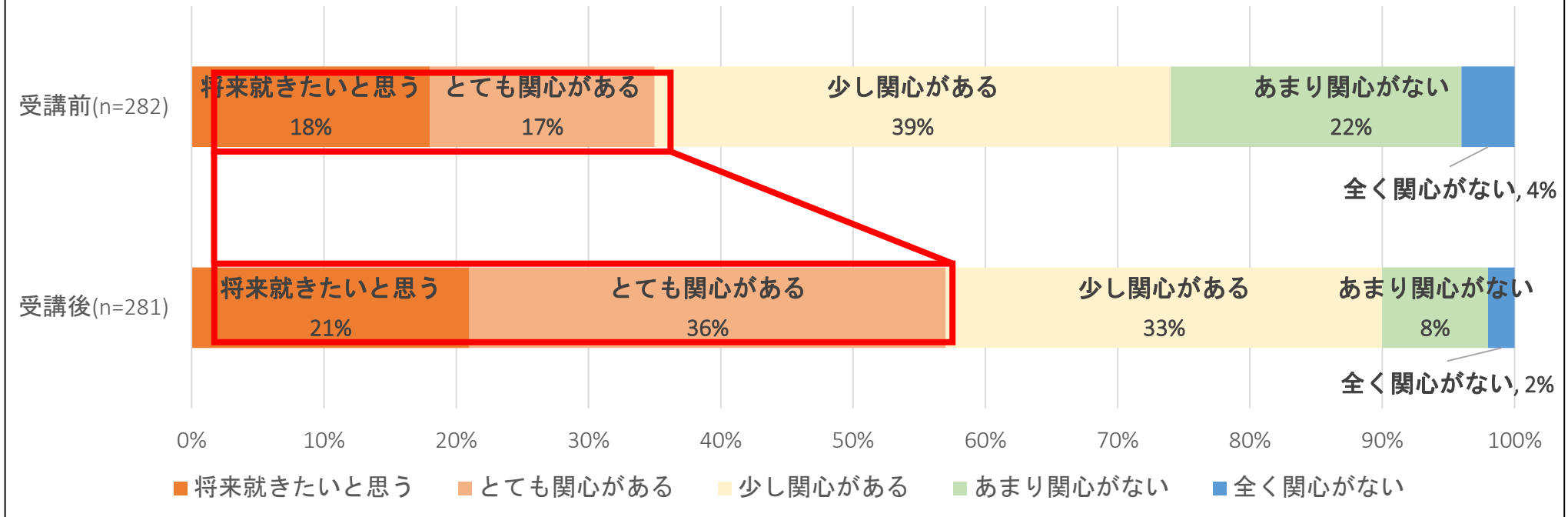
【開催高校】

県立福島北高等学校、県立本宮高等学校、県立喜多方高等学校、県立会津西陵高等学校、
県立石川高等学校、県立ふたば未来学園高等学校、学校法人聖光学院聖光学院高等学校



参加後の意識変化

受講前後の介護の仕事への関心



プログラム受講前後で、**介護の仕事に高い関心を持つ学生が35%から57%へと上昇しました。**
介護の仕事に関心を持つと同時に「知らない世界を知るきっかけになった」「将来を考える良いきっかけになった」といった感想もあり、キャリアを考える機会を提供することができました。

令和6年度 プログラム実施校募集について

令和6年度に本プログラムを開催いただける高等学校を募集しています。
介護の仕事理解や、キャリア教育の一環として、ぜひ本プログラムをご活用ください。

お申込・実施の流れ

① お申し込み

「ふくしま ふくしみらいキャンパス参加申込書」に必要事項を記載の上、メールにてご連絡ください。

② サポーター講師・日程調整

事務局からご連絡し、ご相談の上でサポーター講師の調整、日時の決定などを行います。

③ 授業についての事前打ち合わせ

事前にお打ち合わせをさせて頂き、当日の流れの確認を行います。

④ 授業実施

【申込先】 福島県社会福祉課 担当：福祉介護人材担当宛

メール：shakaifukushi@pref.fukushima.lg.jp 電話番号：024-521-7322

サポーター講師のご紹介



未来の介護を担う次世代リーダーをサポーター講師に！



本事業では、福祉・介護のイメージを改革しているだけでなく、
これからキャリアを築く高校生に刺激を与える次世代リーダー達を
サポーター講師（社会人講師）に迎えます。

福祉分野の仕事に対する高校生の関心を高め、将来の職業選択の一助となる授業をお届けします。



介護×モデル

①上条 百里奈 白梅学園大学研究員/介護福祉士

中学時代から介護ボランティア、その後介護福祉士として病棟、特養、老健、在宅支援等、現場経験は約20年に渡る。介護現場で直面した情報不足による介護虐待や介護職の過重労働に課題意識を持ち、発信力を求め22歳からモデルとしても活動。テレビのコメンテーターやドラマの介護監修等も手掛け、大学での講師や研究員を務める。日本介護福祉学会評議員。

介護福祉士・モデルとして活躍。全国で介護の魅力発信のための講演実績多数。学生向け授業では、講演後に「介護福祉の仕事に関心を持った」と回答した人が3人から250人になった実績あり！

【講演テーマ例】 介護の仕事に就いたワケと、介護の仕事の本当の役割と可能性とは？

(現場での実体験を踏まえて、具体的なエピソードとともにお伝えします)

【昨年度の参加者の声】

- ・ 介護について詳しく知れてよかった。さらに介護職になりたいと思った。
- ・ 介護職のイメージが話を聞く前と変わった。人の最後の人生を豊かにできる唯一の仕事で、とてもいい仕事だなと思った。

サポーター講師のご紹介

介護×インフルエンサー



②はたつん 介護福祉士 / インフルエンサー

1990年生まれ 富山生まれ東京育ち。2011年、東京工学院専門学校ミュージック科卒業後、音楽活動を行いながら小規模デイサービス勤務。2015年、介護福祉士国家資格試験合格。2018年より音楽系・マルチ系としてYouTube投稿を開始 2021年11月はたつん介護士としてTikTok投稿、60万回再生される。現在、YouTuberはたつん介護士として3万人の登録者を有し、TikTok、Instagramなどその他のSNSでも介護士を応援する介護士として毎日投稿を行っている。

日々介護にまつわる情報発信を行う介護福祉士・インフルエンサー。Youtubeの登録者は3万人、

Tiktok4.8万人。介護職から多くの共感を集め、全国の介護職から人気を集める。

【講演テーマ例】 介護系インフルエンサーが語る介護のやりがい

(介護の仕事の面白さ・やりがい、介護の仕事について発信し続ける理由など)

【昨年度の参加者の声】

- ・レクリエーションをやってみて高齢者の気持ちを知ることができてよかった。
- ・最初から最後までずっと楽しく、実際に介護職で働いている人のリアルな声を聞いて、とても参考になった。

介護×地域づくり



③濱野 将行 一般社団法人えんがお 代表理事

平成3年、栃木県出身、作業療法士。大学卒業後、老人保健施設で勤務する中で、地域の高齢者の孤立という現実と直面。孤立が健康を害する様々なリスクにつながることを実感し、孤立の予防・解消を多世代の力で実施することに取り組む。現在、徒歩2分圏内に所在する7軒の空き家を活用し、高齢者サロンや子どもむけスペース、地域食堂・フリースクール・障害者向けグループホームなどを運営。子供から高齢者まで、そして障がいの有無に関わらずすべての人が日常的に関われる「ごちゃまぜの地域づくり」を行っている。

「地域コミュニティ」の力で高齢者の孤立の問題を解決する次世代リーダー。地域の学生を巻き込みながらコミュニティを広げる。”社会課題解決”、“地域づくり”に関心ある学生の心を掴む。

【講演テーマ例】 1人じゃなくて、みんなでやる社会を目指して

(高齢者の孤立の問題を解決するために「地域コミュニティ」の大切さを伝える)

【昨年度の参加者の声】

- ・ 社会の中で助け合いが足りていないこと、孤立する人が増えていることが印象に残った。
認知症を抱える高齢者と精神問題を抱える若者のために、助け合えるような社会にしたいと思った。

サポーター講師のご紹介

介護×多様性のある暮らし

④首藤 義敬

株式会社Happy 代表取締役



23歳の時に、遊休不動産の活用事業や地元である神戸市長田区を中心とした空き家再生事業を開始、27歳で法人化。自身の育児の課題解決も兼ねて、自らの生い立ちから多世代でシェアして暮らす昔の長屋のようなライフスタイルを提案。企画段階から保育園児・学生・主婦・クリエイター・外国人等、多様なバックグラウンドをもつ地域住民で事業計画とコンセプト策定を行いスタートした多世代型介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」は、現在、NHKをはじめとする各種メディアの取材が相次ぎ、看板も広告もしないのに全国から視察が絶えない話題のスポットになっている。

「全国から注目を集める介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」の仕掛け人。

固定観念にとらわれず新たな介護のカタチを提案。考え方・生き方ともに学生の心を刺激します。

【講演テーマ例】 固定観念にとらわれない人の「生きる」に向き合う仕事

(「はっぴーの家ろっけん」の事例をもとに、「生きる」と向き合う仕事の価値を紹介)

【昨年度の参加者の声】

- ・ 高校生は高校生同士、お年寄りはお年寄り同士の関係ではなく、年齢問わず誰でも関われる環境でありたいです。

介護×起業



⑤ 鈴村 萌芽 株式会社musbun CEO

愛知県出身。高齢者が多く住む地域で生まれ育ったので、恩返ししたいという思いで介護施設のボランティアに参加。介護の魅力を知ると同時に人手不足の深刻さも痛感し、介護福祉の魅力を学生に伝えていきたいという思いで2021年に株式会社musbunを設立。福祉のマッチングプラットフォーム、新卒採用支援、Z世代マーケティングの事業を現役学生15人で運営しています。

学生起業家。学生目線で、社会課題をどのように捉え、なぜ福祉・介護領域の課題解決に挑むのか？高校生と年代が近い先輩の目線からお伝えします。

【講演テーマ例】 介護の魅力を考えよう

(起業に至った経緯や介護の魅力を伝え、グループワークを通して介護の魅力を考える)

【昨年度の参加者の声】

- ・ 鈴村さんの活動から福祉の可能性をととても感じたし、グループワークを通していろいろな意見が聞けてよかった。

サポーター講師のご紹介

介護×社会課題の解決

人口減少、高齢化、空き家の増加など地域社会の課題解決の手法を学びます。



⑥橋本康太 理学療法士/暮らし 主宰 ※R6年度新規登壇講師

築120年の古民家（診療所兼民家）をリノベーションして、デイサービスとデザインofficeのある複合型施設「暮らし」を運営。いろいろな方々が"いい感じ"に出会い、必要性に相互扶助が起こる関係性（コミュニティ）が一つの活動テーマ。

【講演テーマ例】 ふくしで編み出す、暮らしのリノベーション。

（「暮らし」の取組をもとに、専門職が地域をより良くするアクションを紹介します）



⑦萩原 涼平 NPO法人ソンリッサ 代表理事 ※R6年度新規登壇講師

群馬県を拠点として、独居高齢者見守りサービス「Tayory」を主軸に、地域サロン事業、地域&企業向け研修事業を実施。ぐんま地域づくりAWARD大賞受賞。

【講演テーマ例】 若者が生み出す地域のつながり

（高齢者の孤立を防ぐソンリッサの活動から、若者世代と地域のつながりについて考えます）

介護×ICT



⑧武藤 高史 カイテク株式会社 代表取締役 ※R6年度新規登壇講師

1988年愛知県生まれ、立命館大学出身。同大学院の情報工学科を卒業。前職のエムスリー株式会社にて、主力サービスのプロダクトマネージャーに従事。2018年に介護医療人材不足という深刻な社会課題の解決を志し、カイテク株式会社を創業、代表取締役社長に就任。2020年に経済産業省ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテストグランプリ、2021年に総務大臣賞を受賞。

高齢化社会や介護現場の課題解決のためにはテクノロジーの力も必要不可欠です。介護×ICTで介護人材不足の解決に挑む「カイテク」の事例から、直接の支援以外の高齢化・介護の課題解決への関わり方をともに考えます。

【講演テーマ例】 テクノロジーで介護現場の笑顔を増やす。

(創業体験も交えながら、介護現場におけるテクノロジー活用の現状や可能性を紹介します)